

第39回「県民文化奨励賞」の贈呈について

一般財団法人ケンシン地域振興財団では、地域の文化活動に対する表彰事業を目的として、地域の文化活動の発展に功績のあった方々に「県民文化奨励賞」の贈呈を行いました。

1. 第39回「県民文化奨励賞」贈呈式

日 時：令和5年12月21日（木）

場 所：オリエンタルホテル広島

2. 「県民文化奨励賞」受賞者

小 蔦 寛二氏（音楽家） 広島市在住

高 山 尚也氏（漆芸作家） 広島市在住

3. 受賞者の紹介

小 蔦 寛二氏（音楽家）

小蔦寛二氏は、昭和61年江田島市生まれのピアニスト。東京藝術大学音楽学部器楽科ピアノ専攻、同大学院修士課程音楽研究科修了。大学院在学中より、ドイツに留学し、国立ハノーファー音楽演劇大学、カッセル市立音楽院、国立ベルリン芸術大学大学院を修了、5年間の研鑽を積まれる。2013年10月バルチック国際ピアノコンクール第1位他、多くの国際コンクールにおいて入賞。2015年末に帰国後は広島を拠点に、ソロ、室内楽、声楽伴奏、オーケストラの客演ピアノの他、妻・小蔦花結とのピアノデュオではモーツァルトの2台ピアノ協奏曲の協演、デュオリサイタル等、幅広く演奏活動を行なっている。また、演奏活動と併行して、2016年4月からエリザベト音楽大学講師、2020年4月から安田女子大学講師、2021年4月から広島文化学園大学講師として教鞭をとり、国内外のコンクールにおいて審査員を務めるなど後進の指導にも励んでいる。

高 山 尚也氏（漆芸作家）

高山尚也氏は、昭和56年広島市生まれ。龍谷大学短期大学部仏教科卒業後、私立専修学校の京都伝統工芸大学校で1年間学んだ後に、京呂色大塚で漆の磨き工程を修行し、「呂色仕上げ」を修得。実家が経営する株式会社高山清に入社。仏壇、寺院用具の製造と修復を手がける。家業を手伝いながら独自の技を磨きあげ、「伝統の技術で新しいものを生み出す」をコンセプトに、制作活動を本格化させる。2018年からは「広島漆芸高山尚也ブランド」にて作家活動にも着手する。寺社修理で培った漆芸の技術力を活かした作品制作により、日本工芸展をはじめとする各地の公募展にて入選・入賞。また、広島の特産品のなかで、とくに優れたものだけが認められる「ザ・広島ブランド」として「広島漆芸高山尚也」が認定を受ける。2023年5月のG7広島サミットでは、開催都市広島市

からG 7首脳とE U議長及び委員長への贈呈品「広島漆芸「伝」」、岸田文雄首相の裕子夫人がG 7首脳とE U議長及び委員長の配偶者への贈呈品「広島漆芸「曙」」を制作し、日本の漆芸の魅力や良さを世界へ発信されている。